

環境生態系保全活動支援調査実証事業（尻屋地域）

（要約）

桐原 慎二・藤川 義一

目 的

尻屋漁業協同組合が組織する「尻屋地域環境生態系保全活動の会」が尻屋沿岸で行うコンブ藻場修復に係る環境保全活動を支援するとともに、活動の実態と藻場造成効果を把握する。

結 果

1 環境保全活動体制の整備

① 協議会の組織

平成 20 年 5 月 28 日に、尻屋地域環境生態系保全活動の会を指導、監督するため、専門家、県行政及び研究機関、東通村役場、漁業者代表者からなる「下北地域環境・生態系保全活動推進協議会」を組織した。協議会において、尻屋地域環境生態系保全活動試行的活動計画を策定するとともに、効果的な活動が展開できるよう助言・指導した。

② 環境保全研修会の開催

平成 20 年 6 月 10 日に、環境保全活動にあたる人材を養成するため、尻屋集落センターにおいてコンブ藻場の保全研修会を開催した。参加者は 38 名であった。

2 環境保全活動の実態把握

① 磯根資源・磯焼け実態調査活動

平成 20 年 6 月 10 日に尻屋漁業研究会員のダイバーが尻屋崎地先の 15 調査線上にある水深 2.5 m、5m、10m、15m、20m にある計 66 地点に潜水し海底の状況を写真に撮影するとともに、海藻と底棲動物を採取し種別に現存量を求めた。併せて、キタムラサキウニの生殖腺指数を求めた。

② 磯焼け漁場からのウニ駆除・移植活動

平成 20 年 11 月 9 日に尻屋漁業研究会員のダイバーが尻屋地先の水深 8.5m～9.8m にある 1

発表誌：尻屋地域環境生態系保全活動支援調査実証事業調査報告書、青森県水産総合研究センター増養殖研究所。平成 21 年 2 月。

ヘクタール(100m 四方)の磯焼け漁場から、殻径 5 cm以上のキタムラサキウニを計 20,400 個体、1,850 kgを駆除し、水深 3m~5mにあるタンバノリ、ツノマタ、フシスジモクなどのいわゆる雑海藻が繁茂する場に移した。平成 20 年 11 月 10 日には駆除範囲に取り残された殻径 5 cm以下のサイズのキタムラサキウニを、ハンマーを用いて潰して駆除した。

③ コンブ幼芽保護のためのウニ駆除活動

平成 20 年 11 月 9 日にキタムラサキウニ駆除場所に再蛸集したキタムラサキウニを、平成 21 年 2 月 23 日に尻屋漁業研究会員のダイバーがハンマーを用いて潰して駆除した。平成 21 年 2 月 24 日には雑海藻場に移植したキタムラサキウニの状況を観察し、生殖腺指数を調べた。併せて、移植ウニによるコンブ幼体の食害を防ぐために、尻屋漁業研究会員のダイバーが 870 kgのキタムラサキウニを採捕した。

④ 法定装備品等の整備

高気圧衛生安全規則により潜水業務での装着が定められ、尻屋地域環境生態系保全活動の会が購入した 15 着分の浮力調整具 (BC ジャケット : M6 着、ML1 着、L5 着、XL3 着)、及び、マコンブ胞子放出から幼胞子体形成期 (冬季~春季) にウニ駆除に取り組むための 5 式のドライスーツと関連装備について確認検査を行った。

2 環境保全活動の効果調査

尻屋地域環境生態系保全活動の会が行った磯根資源・磯焼け実態調査結果を基に、「平成 20 年度尻屋磯根資源調査結果報告書」を作成し、尻屋漁業協同組合員に配布した。

平成 21 年 2 月 23 日、24 日に、尻屋地域環境生態系保全活動の会がキタムラサキウニを駆除した場所に潜水し、海藻生育状況を調べた結果、駆除場所にスジメ、ワカメ、ケウルシグサ、アカモクなど大型褐藻の幼体を確認した。